

特集

2019年4月「教育学部こども教育学科」誕生！
総合学園内の連携による学びで「現場力」を身につける



第1回 帝塚山大学フォトコンテスト表彰式にて(詳細はP19に掲載)

Contents

IR レポート	4	地域連携 最新の取り組み	12
キャンパスレポート	6	クローズアップニュース	13
クラブ・サークル活動	8	後援会(在校生保護者)の皆様へ	15
就職支援の取り組み	10	帝塚山 NEWS & TOPICS	16
卒業生紹介	11	お知らせ・イベントニュース	18

によるリアルな学び

教育学部こども教育学科が誕生

子供の資質、能力をのばす教員の育成をめざす
2019年4月

総合学園である帝塚山学園として、
同一キャンパス内にある帝塚山幼稚園、小学校、
中学校、高等学校との連携による学びで
「現場力」を身につける

3じからのわくわくいろいろあそび(3、4年次)

「3じからのわくわくいろいろあそび」は、明日香村立明日香幼稚園との連携により、大学教員の指導の下、3、4年生の学生が企画した遊びを提供し、園児の健全な成長に寄与しようという取り組みです。

地域連携



昨年度から取り組みが開始され、子どもたちの身近にある「もの」「こと」「ひと」を教材に、心も体もわくわくして自己表現できる子どもをめざす総合表現遊びが展開されてきました。

今年度の第8回目は「みんなでつくろう たのしいかたち おもしろいかたち」と題して実施されました。磁石でつながる数学ブロック「マグ・フォーマー®」を使って、子どもたちの自由な発想で「まちづくり」をする内容です。「わーできたね」「すごいね」「きれいだね」などと声をかけながら、子どもたちの活動を学生たちがサポートしました。

■【公開講座】教育学部こども教育学科開設記念

こども学講座「新しい教育のシステムと乳幼児への保育・教育」を開催しました



帝塚山大学では、現代生活学部子育て支援センター「まつぼっくり」の地域貢献の一環として、「こども学講座」を開催しています。

今回のこども学講座は、2019年4月に設置する教育学部こども教育学科開設記念として開催しました。10月20日18号館4階大講義室にて、保育者の方々、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園の施行に伴い必要となった新たな内容について理解を深めていただくことを目的として、現代生活学部こども学科の清水益治教授(専門分野: 認知心理学、保育心理学)が、「新しい教育のシステムと乳幼児への保育・教育」と題して講演しました。地域の保育所・幼稚園・認定こども園に勤務される先生方や、こども学科を卒業後、保育の現場で活躍する卒業生を合わせ、約50名の方々に参加いただきました。

■【学生コンサート】教育学部こども教育学科開設記念

「帝塚山大学 Student Concert」を開催いたします。



昨年のコンサートの様子

学生たちが頑張る学友の姿をお互いが認め合い、刺激し合い、意識の向上を図ることを目的として『帝塚山大学 Student Concert』を開催いたします。これまで学生たちが学内外で学んできた音楽分野の取り組みを、舞台の上で発表します。

【出演者】現代生活学部こども学科 在学生

【会場】学園前ホール(奈良市西部会館市民ホール)

【日時】2019年1月29日(火) 14:30開場 15時開演
(終演予定時刻 17時)

【演目】ピアノ独奏・声楽独奏・合唱・器楽アンサンブル・重唱・こどものうた・手遊び・音楽表現

※一般の方は、参加申し込みが必要です。申し込み・問い合わせメールアドレス: kyoiku@jimu.tezukayama-u.ac.jp

これからの教育者に求められる知識やスキルをより効果的に身につけることを目的に、これまでの現代生活学部こども学科を改組し、教育学部こども教育学科を開設します。めざすのは、子どもたちの「自ら学ぶ力」を引き出し、自分自身も学び続けることができる先生の養成です。そのための多彩な取り組みを紹介します。

総合学園としての連携と多彩な地域連携

トライアル実習(1年次)

「トライアル実習」は、大学1年次から保育・教育の現場を知るために、帝塚山幼稚園、帝塚山小学校との連携によって行う実習です。

総合学園内連携



帝塚山小学校で行われた観察実習では、教頭先生から帝塚山小学校の歴史や教育方針について説明を受けた後、小学校教育に新たに盛り込まれた英語教育やプログラミング教育を学ぶため、英語教室とコンピュータ室を見学しました。その後、約10名ずつに分かれ、2年生、3年生、5年生の教室において、授業の様子を観察しました。

参加した学生たちは真剣にメモを取り、終了後には相互にまとめた内容について意見交換していました。トライアル実習の前の週には幼稚園での観察実習を実施し、次の週の大学での授業では、観察したことをロールプレイによって再現することで、トライアル実習の振り返りを行います。

リフレクション実習(1年次)

「リフレクション実習」は、併設の子育て支援センター「まっぼっくり」の中で、学生が幼児児や保護者と触れ合う体験について、DVD録画を活用して自己の関わりを振り返り、再検討する実習です。

総合学園内連携



毎週木曜日の10時～12時、センターの施設を開放し、親子で楽しみながら自由に遊ぶ機会を提供しています。リフレクション実習は、この「つどいの広場」に大学1年生が参加し、各自が立案した指導案に沿って遊びを展開する実習です。その一部は、隣接する観察室から操作されるカメラによって2つの方向から録画されます。

参加実習を終えた後、録画の書き起こしをすることによって、子どもの行動を客観的に見たり、自分の関わりを客観的に振り返る力を身につけます。

■教職支援センター「即戦力養成講座」スタート



2018年10月より『教職支援センターによる第3期「即戦力養成講座」～教員採用試験合格から教育現場での即戦力を養成～「いい先生になろう！」』がスタートしました。11月には「学校教育コース」「幼児教育コース」共に集団面接(基礎編)として、志望動機や自己PRを学び、実技(基礎編)として、「学校教育コース」では板書基礎やロールプレイング、「幼児教育コース」ではピアノ、絵本読み聞かせなども学びました。1月～3月には、両コース共に集団面接(応用編・実践編)として、教育課題や保護者対応、場面指導などの内容で行われます。そして、実技(応用編・実践編)として、「幼児教育コース」はピアノ、絵本読み聞かせのレベルアップを図り、新たに紙芝居やエプロンシアター、ジャンボ絵本、パネルシアターなどに挑戦します。「学校教育コース」は、模擬授業基礎や集団討議、板書基礎なども学び、採用試験合格と現場での即戦力となる講座が進められます。

	10月～11月	12月～1月	2月～3月	4月～6月	7月～9月
幼児教育コース	オリエンテーション 集団面接(基礎編)	集団面接(応用編) 実技(基礎編)	集団面接(実践編) 実技(応用編)	集団・個別面接(即戦力の養成編) 集団討議、実技(実践編)	直前対策
学校教育コース	オリエンテーション 集団面接(基礎編)	集団面接(応用編) 集団討議(基礎編)、模擬授業等	集団面接(実践編) 集団討議(応用編)、模擬授業基礎	集団面接(即戦力の養成編) 集団討議(実践編)、模擬授業実践	直前対策

教員採用試験合格者の声(こども学科4年生)

浅野 明日香さん(奈良県教育委員会内定)

実習を通して、実際の授業に触れ、自分の欠点を発見し、子どもたちとの関わり方を改善していくことができました。即戦力養成講座では、課題をクリアするたびに自分の引き出しが増えていくことを実感できました。また、現役の小学校教諭からのアドバイスもいただけて、働いてからも役立つ実践的な学びが得られました。

戸田 大輔さん(京都市教育委員会内定)

実習では、気になったことを先生方に質問でき、保護者の方からは子育ての思いや悩みを聞くことができました。即戦力養成講座では、一つひとつ丁寧に指導いただき、自信をもって本番に臨めました。社会人としてのマナーや言葉遣い、身だしなみの大切さも教わり、教員採用試験に活かされただけでなく、これからの教師人生におおいに役立つと思います。

学習行動調査からみる帝塚山大学生

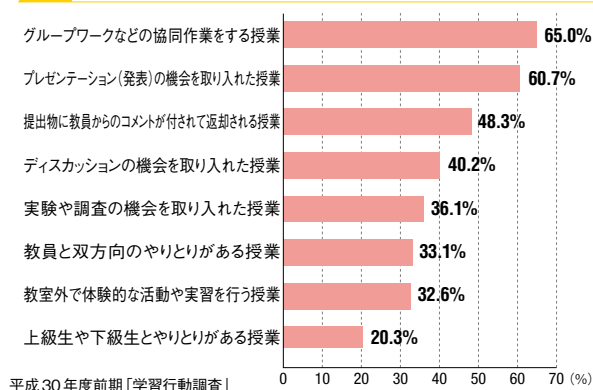
本学では、入学から卒業までの大学生活4年間を通して、学生を対象とした各種アンケートを定期的に実施し、各時点における学生の現況を把握するとともに、その結果を教育や学生支援の改善に活かすべくIR[※]に取り組んでいます。その取り組みのひとつとして、在学生を対象に、毎年度、後期の履修登録期間中、学習経験や学習時間、大学の学びで身についた力・知識等を尋ねる「学習行動調査」を継続的に実施しています。また、今年度は初めて前期にも調査を行いました。これらの結果を分析し、導き出された課題を整理することで、今後の教育内容・方法や学生支援策の改善に役立てていきたいと考えています。

授業での学習行動

■ アクティブ・ラーニング型の授業を経験している学生は全体の6割超

「これまで経験したことのある授業形態」について尋ねる質問に対して、「グループワークなどの協同作業をする授業」の割合が最も多く、65・0%の学生が経験したことがあると回答しました。次いで、「プレゼンテーション（発表）の機会を取り入れた授業」（60・7%）に

図1 これまで大学で経験したことのある授業形態(複数選択可)



平成30年度前期「学習行動調査」

■ 全国平均を上回る授業への積極的な取り組み姿勢・態度

「提出物に教員からのコメントが付されて返却される授業」(48・3%)の順に高い値となりました(図1)。

「大学の授業に普段どのように取り組んでいるか」を質問したところ、(図2)のとおり、いずれの学習行動においても「あてはまる」と回答した学生の割合は全国平均より高く、本学の学生が積極的に学ぶ姿勢・態度を持っていることが見てとれました。項目別に見ると、「授業でわからなかったことは、自分で調べ」(75・9%)、「授業で興味をもったことについて自主的に学習する」(67・9%)の順に、高い値を示しました。

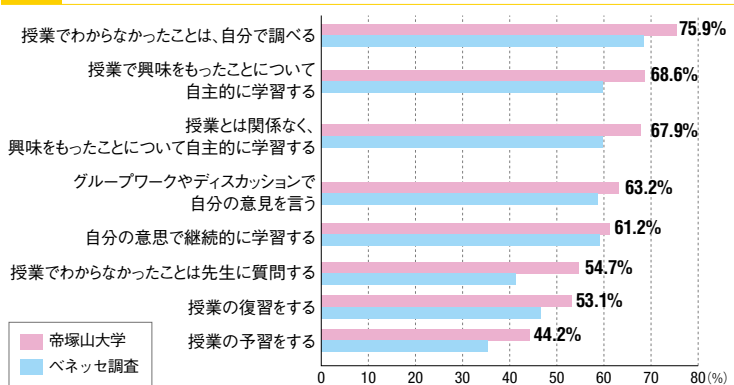
これらの結果について、飛世昭裕副学長（教
学担当）からは「本学では『プロジェクト型学
習』をはじめとするアクティブ・ラーニング
（Key Word 参照）型の授業を全学的に推進し
ており、教員が作成する各授業科目の授業計
画（シラバス）にもアクティブ・ラーニングの
内容を盛り込むようにしています。授業への



プレゼンテーションや質疑応答でアクティブ・ラーニングを実践する学生

積極的な取組姿勢・態度を持つ学生が多い理由のひとつとして、このような授業経験が生成されているのではないだろうか。これ以外にも様々な形で学生にアクティブ・ラーニングの機会を提供していきたいと思います。また、今後は学生の学習意欲をいかに持続させ、学生の成長に結びつけていくかも課題と考ええています」とのコメントがありました。

図2 授業への取組姿勢・態度(複数選択可)



平成30年度前期「学習行動調査」

(参考) ベネッセ教育総合研究所「第3回大学生の学習・生活実態調査報告書」2016年

アクティブ・ラーニングとは？ [Key Word]

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称です。国の施策においても、社会が急激に変化する中、先の見え難い時代を生きる学生に対し、大学は「生涯学び続け、主体的に考える力」の育成が求められており、それを実現するための方法のひとつとして、アクティブ・ラーニングが注目されています。

< 参考資料 >

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」2012 年

※1 IRとはInstitutional Research（インスティテュショナル・リサーチ）の略称で、大学の教育・研究などに関する情報の収集・分析を通して、大学の経営に関する意思決定や、教育の改善のための計画策定などの支援を行うことを指します。

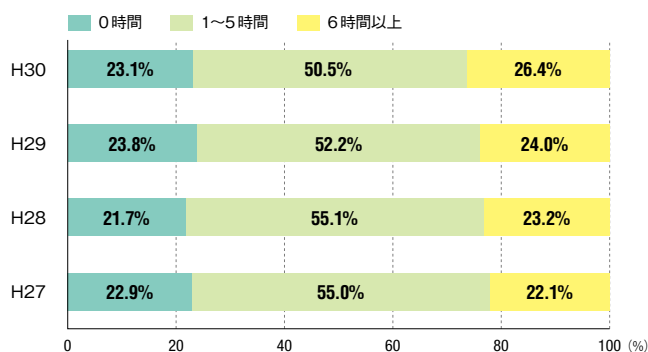
授業時間外での学習行動

■ 僅かずつながら改善を見せる授業時間「外」の学習時間

「授業開講期間中1週間あたりの授業時間外の学習時間」について、73・6%の学生が「5時間以下」と回答しました。全国的に学習時間が少ないことが言われていますが、本学でも同様に課題となっています。一方で、経年的に見ると僅かずつではあるものの、「6時間以上」の学生の割合が増えつつあります(図3)。

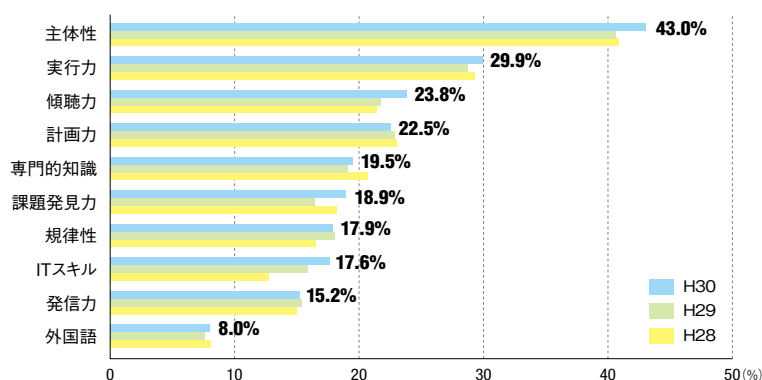
この結果について、向井篤弘副学長・情報教育研究センター長は「学生の学習時間の確保に向け、自習室等、ハード面の整備を充実させるとともに、eラーニングによる教育支援システム『TALES』の活用等、ソフトウェアにおいても学生の主体的な学びを促進す

図3 授業開講期間中1週間あたりの授業時間外の学習時間(ひとつ選択)



平成30年度後期「学習行動調査」

図4 これまで身についたと思う「力」や「知識」(複数選択可)



平成30年度後期「学習行動調査」

る環境づくりを進めています。これらの取り組みにより徐々に改善されてきているとはいえ、前頁の『授業への取組姿勢・態度』では、『予習・復習をする』と回答した学生が全体の4~5割に留まっています。今後も継続的に、学生の学習時間の確保に向け、その方策を検討する必要があります」とコメントしています。

身についた力と大学への満足度

■ 「これまで身についた力」の順位に変化

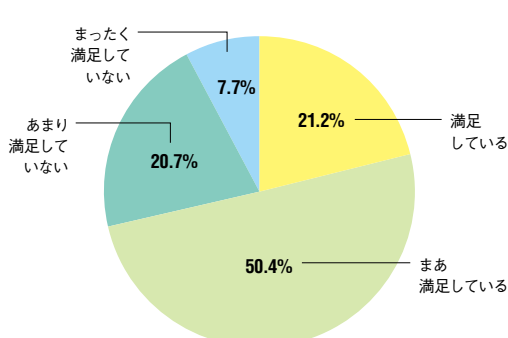
「これまで身についたと思う力や知識」について質問したところ、上位3項目は、主体

性(43・0%)、実行力(29・9%)、傾聴力(23・8%)の順となり、昨年の上位3項目「主体性・実行力・計画力」から変動がありました(図4)。一方、下位3項目は、外国語(8・0%)、発信力(15・2%)、ITスキル(17・6%)で昨年と順位は変わらないものの、経年的に見ると、ITスキルが年々、高まっていることがわかります。これらについて飛世副学長は「経団連の調査結果※によると、産業界が大学等卒業時に学生に身につけてほしいことを特に期待する資質・能力・知識として、『主体性』と『実行力』が高いポイントを示しています。また、同調査では『課題設定・解決能力』が前回調査と比較して高い順位となっていることも報告されました。学生には、『主体性』や『実行力』はもちろんのこと、社会で求められる力をバランスよく身につけてもらいたいと考えています」とコメントしました。

「帝塚山大学への満足度」は昨年並みの数値

「帝塚山大学に満足しているか」を尋ねる質問に対して、「満足している」「まあ満足している」と回答した割合は(図5)のとおり合計71・6%でほぼ昨年並みの数値でした。これについて、蓮花一己学長は「本学の教育や学生支援の取り組みに対する総合的な評価として学生の満足度があると考えています。今年は学生・教職員に帝塚山大学のキャンパスの素晴らしさを再認識してもらいたいという目的で、キャンパスの風景写真を募る『帝塚山大学フォトコンテスト』を開催し、予想を上回る300点もの応募がありました。今後も大学が標榜する『実学の帝塚山大学』や

図5 帝塚山大学への満足度(ひとつ選択)



平成30年度後期「学習行動調査」

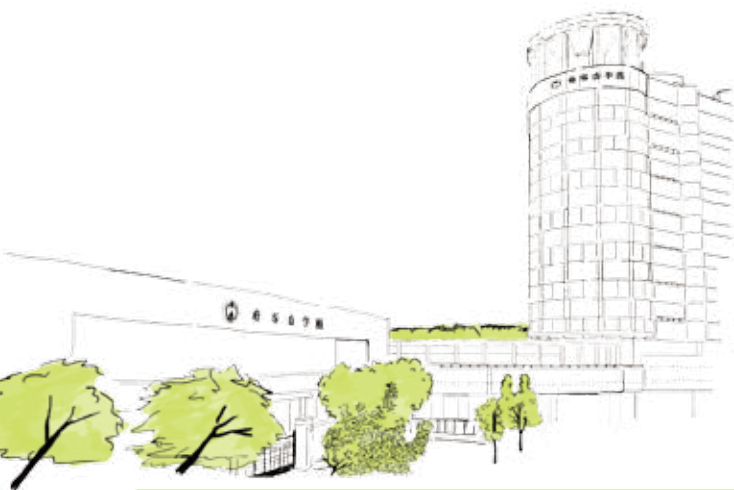
『品格のある大学づくり』を念頭に、学生が本学に入学して良かったと思えるような大学をめざしていきたいと思っています」とのコメントがありました。

誌面の都合上、全ての調査結果を掲載することはできませんでしたが、今回抽出されたテーマや課題について、今後、大学としてさらに検証を重ね、改善へと繋げていきたいと思っています。

最後になりましたが、昨年度に引き続き、今夏も保護者アンケートを実施いたしました。誠にありがとうございました。お寄せいただきました貴重なご意見は本学の教育および学生支援の充実・改善策を検討するために活用させていただきます。

学習行動調査実施概要…前期は2年生以上の在学生、後期は在学生全員を対象。webによる各期の授業科目の履修登録画面にアンケート設問が自動表示され、その場で入力。回答者数率(前期)2386名男子1220名女子1166名、97.7%。後期)3230名男子1670名女子1560名、92.7%。

※日本経済団体連合会「高等教育に関するアンケート結果」2018年



CAMPUS REPORT

キャンパスレポート

奈良・東生駒、学園前の両キャンパスの学部・大学院における取り組みを紹介します。

SPECIAL CAMPUS REPORT 経営学部 経営学科

おもてなしの心を学んでいます

特殊講義（エアラインホスピタリティ）では2年生以上の学生を対象に、ANA（全日本空輸株式会社）でキャビンアテンダントを務めた講師が、航空会社が長年蓄積してきた「おもてなしの心」をもとに、ホスピタリティに関する授業をしています。モノがあふれかえる現代、日常生活はもちろん、産業界でも心の重要性が高まって来ています。授業では航空運送事業を例に、ホスピタリティ産業の現状を現場の声を交えながら解説していきます。そして、マナー講座も取り入れ、相手が受ける感じの良さや相手を思いやる心を伝える術を学べる内容となっています。この授業を通じて、学生たちが即戦力を身につけ、社会に出た際、それを活かしてくれることを期待しています。



文学部 日本文学学科 株式会社呉竹前社長 綿谷基氏による講演会を開催

帝塚山学園同窓会と文学部の連携企画として、10月26日に、株式会社呉竹前社長で帝塚山学園同窓会長でもある綿谷基氏による講演会を開催しました。綿谷氏からは、奈良県の伝統産業である製墨業の歴史に始まり、新商品開発にまつわるさまざまな苦勞、社会状況・市場の変化に応じた経営改革や新たな事業展開など、経営者ならではの視点から貴重なお話を伺うことができました。就職活動に向けて学生時代に心がけておくべきことや、働きやすい環境づくりにあたっての工夫など、学生たちから寄せられた数多くの質問にも丁寧にご対応くださり、時間いっぱいまで熱気に包まれた講演会となりました。



経済学部 経済学科 「証券外務員資格」に合格しました！

銀行や証券会社などの金融機関で、金融商品取引業務を行うために必要な資格の一つに「証券外務員資格」があります。経済学部の中嶋ゼミでは、この資格取得にも力を入れています。ゼミの学生たちに証券外務員資格のテキストを用いて学習させ、練習問題にも取り組み試験対策を指導していますが、その成果として、3年生の郊 韵笛（コウ インテキ）さん〔出身：中華人民共和国〕が、二種外務員資格試験（4月）と一種外務員資格試験（10月）、両方の試験に同年中に合格しました。郊さんは卒業後、日本の証券会社へ就職を希望しており、「この資格を就職活動と仕事に活かしていきたい」と抱負を語ってくれました。



文学部 文化創造学科 古民家再生プロジェクトへの参加

文化創造学科では、河川充勇教授担当クラスの「文化創造演習」を中心に、学生有志が奈良県東部の山添村での古民家再生プロジェクト（「農泊」を基軸とした観光まちづくり）に参加し、古民家リノベーションに向けた清掃活動やフィールドワークを通じた食のコンテンツ探しなど、さまざまな役割を担っています。今夏には、山添村にて合宿を行い、2日間にわたって、プロの庭師の指導の下、しばらく空き家になっていた古民家の庭や道を再生させる作業を体験しました。この古民家は、宿泊施設に生まれ変わる予定です。



現代生活学部 食物栄養学科 TEZUcafe（テツカフェ）大塔カレーパンが交流創造賞を受賞道の駅のグルメナンバーワンを決定する「第3回 道-1グランプリ」が9月23日・24日に京丹後市「食のみやこ」にて開催され、河合ゼミが運営する「吉野路大塔 学生レストランTEZUcafe（テツカフェ）」が参加しました。地元食材のジビエを使った「大塔カレーパン」が見事「交流創造賞」を受賞しました。このカレーパンは五條市の協力のもと、地元の人気パン工房ヤムヤムと共同開発したもので、開発から製造、販売までを学生が主体となって関わり、学生にとっては日頃の学びを実践する貴重な経験となりました。



法学部 法学科

大阪刑務所の施設を参観しました



8月9日、特殊講義「矯正学」の一環として、大阪刑務所の施設を参観しました。心理学部と合同で行われたもので、刑務所等の矯正施設の現状、社会的役割を理解し、犯罪者や非行少年の処遇について

学ぶことを目的としています。当日は心理学部の花田准教授が引率し、法学部の松岡客員教授、岡本教授も同行しました。刑務所では、施設を参観後、分類審議室長より受刑者が入所してから社会復帰するまでの処遇の流れについてご説明いただきました。11月27日には京都拘置署長による刑務官実務講座も実施しました。

心理学部 心理学科

多岐にわたる心理学を主体的に学ぶ！



1年生開講必修科目の「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生たちが、担当教員の専門とする領域の心理学について、現在注目されているアクティブ・ラーニング形式で受講し、主体的かつ双方向的に学

んでいきます。学習心理学がテーマの演習では、学習心理学の知識に基づいて実際にラットに新しい行動を学習させるという「シェイピング実習」にチャレンジしています。心理学部では多岐にわたる心理学を、基礎の時点から座学だけではなく、体験を通して学ぶことができます。

現代生活学部 居住空間デザイン学科

廃校校舎の再活用プロジェクトスタート！



平成14年に統合により閉校した西豊小学校(奈良県山添村)の校舎再活用を考えるプロジェクトがスタートしました。奈良県地域振興部奥大和移住・交流推進室と山添村の地域振興課の協力を得て、9月に

は辻川学科長、小菅准教授、岡田講師の指導のもと、3年生の能島優仁さん、古田麻衣さん、村田天楽さん、安田昌広さんの4名の学生が現地調査を行い、10月には奈良・学園前キャンパスにて、県と村に対して廃校校舎の再活用の提案会議を行いました。今後、キックオフイベントに向けた空間の整備を進めて行きます。

現代生活学部 こども学科

保育所実習報告会を行いました



8～9月に保育所実習を行った2年生が実習報告会を行いました。最初に、それぞれの実習における学びを共有するために2年生がグループに分かれて実習の体験を発表し合い、それを踏まえてグルー

プディスカッションを行いました。さらに、2年生が1年生に実習の体験を伝えるための報告会も行いました。1年生は2年生の報告から来年度の保育所実習に向けてイメージを明確にし、2年生は報告することで実習での学びを整理して省察するなど、学生にとって非常に意義がある報告会でした。

大学院 心理科学研究科 心理科学専攻 本大学院の修了生が続々と活躍中！

本研究科の修了生たちが、修了後も研究活動に励み、その研究成果を様々な形で発信をしています。修了生の山下雅俊さん[2016年3月修了(後期)]と盛永政和さん[2017年3月修了(後期)]の共同研究が学術誌“Biomedical Journal of Scientific & Technical Research”に掲載され、野田智美さん[2011年3月修了(修士)]の共同研究も、学術誌“Personality and Individual Differences”に掲載されました。宮川裕基さん(写真左)[2017年3月修了(後期)]が日本応用心理学会2018年度学会賞、松田祐輝さん[2017年3月修了(前期)]が第85回日本応用心理学会で優秀大会発表を受賞しました。



大学院 人文科学研究科 日本伝統文化専攻

東近江市能登川博物館・埋蔵文化財センターとの共催展示を開催

人文科学研究科では、滋賀県東近江市能登川博物館・埋蔵文化財センターと本学附属博物館が共同で開催した特別展示「東近江の古代寺院とその源流」(11月14日～12月23日)に出陳する展示資料の搬出作業や陳列作業を実施しました。大学院生のなかには、将来、博物館学芸員をめざす者も多くいます。身近にある博物館での展示作業を通じて、学芸員の仕事をより実践的に学ぶことができることは、本研究科の大きな特長です。

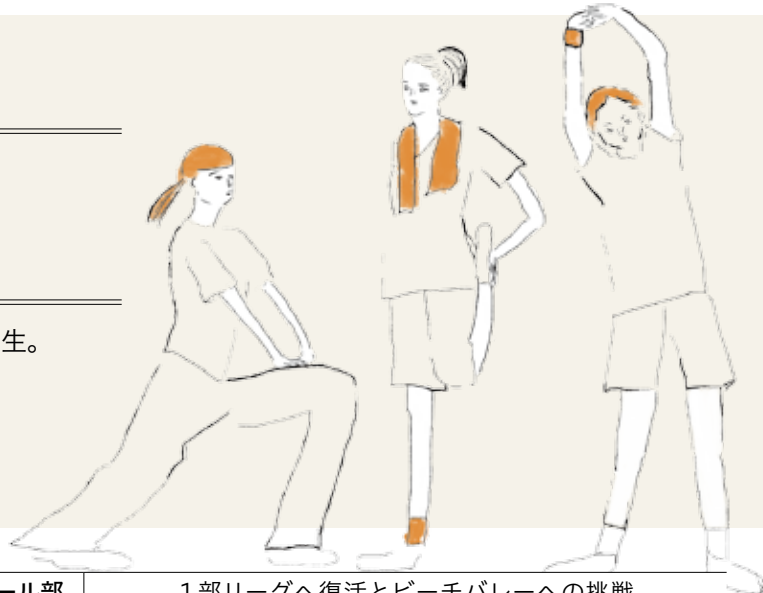


CLUB ACTIVITIES

クラブ・サークル活動

クラブ・サークルを通して、学内外で活躍する帝大生。
学生たちの元気な姿をお届けします。

今回の PICK UP!



奈良・東生駒キャンパス

女子バレーボール部

1部リーグへ復活とビーチバレーへの挑戦



私たち『女子バレーボール部』は、2つのバレーボールに取り組んでいます。

1つ目は皆さんがイメージする「バレーボール(6人制)」です。本年度の関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦女子1部においては、序盤の不振もありセット率で最下位となり2部降格となってしまいました。その後の西日本バレーボール大学女子選手権大会(西日本インカレ)の結果もあり、秋季リーグ戦2部優勝で1部復帰はもとより全日本バレーボール大学女子選手権大会(以下全日本インカレ)出場が叶うことがわかりました。それ以降、部員の思いは2部リーグでの優勝1部復帰、全日本インカレに出場し、東京で4年生を送り出すということになりました。結果、秋季リーグにおいては全勝優勝をはたし、最短での1部リーグ復帰を決め、全日本インカレへの出場権を獲得しました。最優秀監督賞に本田監督、最優秀選手賞に4年生霜山華澄選手、スパイク賞に3年生植村春菜選手、ベストスコアラー賞と新人賞に1年生中野樹里選手が選出されました。念願の全日本インカレでは、初戦九州1部の「福岡教育大学」にセットカウント3-1で勝利しました。2回戦では前年度優勝の「青山学院大学」に挑戦し、前評判とは裏腹にセットカウント1-2と追い込む場面もありながら、フルセットで敗退しました。白熱した戦いであったためスポーツ新聞にも取り上げられ、選手たちも次年度に向け、太いなる励みとなりました。

2つ目は、太陽のもと砂浜にネットを張った「ビーチバレーボール(2人制)」です。3年生堀田いづみ選手、1年生酒井栞選手のペアが関西の大会で3位という好成績を残し、8月に神奈川県川崎市で開催された「第30回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会」に出場しました。全国の強豪が集まるこの大会でも、予選リーグを勝ち上がり決勝トーナメントに進むことができました。決勝トーナメントでは予選で惜敗した「日本女子体育大学」ペアとの対戦になりリベンジを期しましたが、結果0-2での敗退となりました。来年こそ決勝トーナメントで勝利し入賞したいと決意を新たにしました。

奈良・東生駒キャンパス

硬式野球部

2部東リーグで優勝しました!



2018年度阪神大学野球2部東秋季リーグの最終戦。万博記念公園野球場にて追手門学院大学との優勝決定戦に臨みました。1回裏、榎田選手の先頭打者HRに始まり、2回1点、3回3点、6回に4点。投げては3年生内原選手、2年生松本選手の継投で2点に押さえて7回でコールド勝ちを収め、2部東リーグ優勝を果たしました。10月20日からは、入替戦出場をかけて西リーグ1位の流通科学大学と戦いましたが、惜しくも1勝2敗で敗れました。なお、阪神大学野球連盟による2部東リーグ表彰選手のうち、最優秀選手賞に日比涼介選手、最優秀投手賞に松本大地選手、首位打者賞に芦内隼選手、ベストナインに5名の選手が選ばれました。

奈良・東生駒キャンパス

レスリング部

国内最高峰「天皇杯全日本選手権」に出場!



レスリング部の平成30年度実績は、以下の通りです。6月に東京で開催された「『明治杯』平成30年度全日本選抜選手権大会」のグレコローマンスタイル87kg級に島田選手が出場し、見事第3位となり本学創部初のメダル獲得となりました。なお、この結果を受け、12月に東京で行われる国内最高峰の大会「平成30年度天皇杯全日本選手権」にグレコローマンスタイル87kg級で島田選手が出場することとなりました。また社会人大会で優勝を飾った、本学卒業生の竹内亮亘選手(現:総合警備保障株式会社所属)も出場します。他には10月に開催された「平成30年度西日本学生選手権大会」では、グレコローマンスタイル97kgで島田選手が優勝、55kgで中村晟笙選手が3位、77kgでは藤井瀬名選手が3位入賞を果たしました。

奈良・東生駒キャンパス	ラグビー部	念願のBリーグへの昇格
-------------	-------	-------------

私たち帝塚山大学ラグビー部は、大阪国際大学との試合が14-38という残念な結果に終わり、リーグ戦5勝1敗1分となっていました。これにより、一番の目標だった優勝しての全国地区対抗大学ラグビー大会への出場権は逃してしまいました。次の目標のBリーグ昇格をかなえるために、残り2戦は負けられません。11月18日の1戦目は、この時点で7戦全勝している甲南大学との対戦でした。絶対に負けられないという重圧の中、相手ホームということもあり、前半は0-17と劣勢でしたが、後半を立て直し、31-24と劇的な逆転勝利を収めることができました。Bリーグ昇格の必要条件は、あと1勝。11月25日の2戦目は、ここまで6勝2敗の大阪大学でした。激闘の末、大阪大学との最終戦を35-21で制し、リーグ2位で、念願のBリーグへの昇格を決めました。



奈良・東生駒キャンパス	華道部	日々の活動とフラワーアレンジメント体験
-------------	-----	---------------------

私たち、華道部は「花と慣れ親しみ、精神を向上させる」をモットーに、毎月第二・第四金曜日のお昼休みに第一クラブハウスで活動しています。「大和末生流」という流派の生け方を先生方に教えていただき、生けた花は学内各所に飾っています。毎年11月に開催される「虹色祭」(大学祭)ではフラワーアレンジメントの体験を行っており、毎年たくさんの方が参加されています。また今年は留学生の方に日本の文化を体験してもらい、日本人学生との交流を深めることを目的とした「学生国際交流会」にも参加しました。留学生の方にフラワーアレンジメントの体験をしていただいたところ、とても喜んでくださいました。華道部は月に二回と回数が少ないので他のクラブとの兼部者も多く、初心者からの入部者も多いのも特徴です。活動日ならいつでも見学・体験に来ていただいて構わないので、ぜひ一度華道部へ足を運んでみてください！



奈良・東生駒キャンパス	大学祭実行委員会	「虹色祭」の企画・運営
-------------	----------	-------------

私たち大学祭実行委員会は、毎年11月に行われる「虹色祭」の企画・運営を行っています。大学祭当日に学内を彩る装飾品の作成や、パンフレットの作成、模擬店の募集や管理、メインステージの運営など、大学祭の全てに携わっています。企業の方と直接出会いパンフレットを作成し、ステージを盛り上げていただくアーティストやお笑いタレントとの調整を、ゲストプロモーターを通じ交渉するなど普段の学生生活では経験できない活動をしています。「ミスコンテスト」「イケメンコンテスト」「アームレスリング」など「虹色祭」のステージ企画を考え、リハーサルを何度も行い当日盛り上げていく準備をしています。大学祭準備活動のほかにも、旅行、クリスマスパーティーなど、メンバー同士の親睦を深めるイベントも盛りだくさん！「虹色祭」に向け、全員で力を合わせて準備に取り組んでいます！メンバーの団結は勿論のことですが、大学関係者、企業関係者など様々な方の力を借りて「虹色祭」を作り上げていきます。

毎年雨が心配される大学祭ですが、今年は晴天に恵まれ、4,247名の来場者の方々に楽しんでいただけた2日間となりました。学長プロジェクトであった「フォトコンテスト」では帝塚山大学のキャンパスの素晴らしさを再認識する風景を写真に収め、学生や教職員が多数応募しその入選作品が展示されました(我が大学祭実行委員会のメンバーも見事入選しました)。今年の「よしもとお笑いLIVE」では、『さや香』と『ダブルアート』の2組が観客を爆笑の渦に巻き込み、「アーティストライブ」では、あの『ET-KING』が、終了時刻を過ぎてでも観客のアンコールに応えてくださり、最後の最後までステージは大盛り上がりでした。「虹色祭」のフィナーレを飾るのは感動の花火！今年は少し変化を加え、花火前にメッセージを添える「メッセージ花火」で、見学に来られた多くの方に感動を与えることができ、音楽と共に打ち上がる花火は「虹色祭」のラストにふさわしいものとなりました。来場された方々からは、すれ違うたびに楽しそうな笑顔が見られ、安心とともに達成感のようなものを感じました。私たちが、準備に力を入れてきたのはこの笑顔のためだったのか！ということに気づき、努力が報われた瞬間でもありました。大学祭準備から多くの方々に助けられて当日を迎えられたことを本当に感謝しています。大学関係者、企業関係者、そして学生の皆様、本当にありがとうございました。感謝の気持ちを忘れず、来年も皆様楽しんでいただけるような大学祭を作りますので、「虹色祭」にまた足を運んでください！



就職支援の取り組み

FROM THE CAREERS OFFICE

キャリアセンターより

2018年度の採用環境も総じて企業等の採用意欲は旺盛であり「売り手市場」といわれています。しかしながら、量よりも質を重視する企業の姿勢は変わらず、多くの企業において求める人材像は明確であり、その質を落としてまで採用することはなく、「厳選採用」を続けています。キャリアセンターでは「質」が問われる厳しい就職戦線を勝ち抜くため、多様なキャリア・就職支援プログラムを開催するとともに、さまざまな情報提供を行っており、学生が抱える就職活動への疑問や相談に対して一人ひとりにきめ細かなサポートを実施しています。

【保護者対象就職説明会を両キャンパスで開催しました】10/21(日)

<就職講演会>

「保護者のための就活応援講座」と題して、株式会社リクルートキャリアの担当者から、現在の就職環境と就職活動の実態、保護者としての支援について説明がありました。就職活動の流れやエントリー方法、一人当たりのエントリー件数などの説明の後、最後に就職活動中の学生が思う、保護者に対して嬉しかったこととして挙げられた「聞き役になってくれた」「自分の活動を肯定してくれた」「食事面・生活面での支援をしてくれた」等のコメントについての説明がありました。



<内定学生によるパネルディスカッション>

4年生によるパネルディスカッションが実施されました。奈良・東生駒キャンパスは4名、奈良・学園前キャンパスは5名の内定学生が登壇して、「就職活動で苦労したこと」「保護者の対応で嬉しかったこと、嫌だったこと」等の問いに対して回答していました。その後、参加された保護者の方からの質問を受けて、学生たちは実体験について詳しく説明しました。参加くださった保護者の方からは、「4年生によるパネルディスカッションは成功体験なので、とても参考になりました。内定取得に至った共通点を分析すると、キーワードが浮かびあがってきます。」といったご感想もいただきました。(P15にも他のご感想等を掲載)



<個別相談会>

内定学生によるパネルディスカッション終了後、個別相談会が実施されました。保護者の方々からは、現状の就職状況や個別指導の内容などについての質問があり、教員及びキャリアセンター職員が個別に対応し、説明しました。

【学内合同業界研究セミナー】開催のお知らせ

【日時】平成31年2月14日(木)、15日(金)、19日(火)、21日(木)、22日(金)、25日(月)、27日(水)

【場所】奈良・東生駒キャンパス「まほろば」(9号館2階)

【内容】大学内に約200社の企業、官公庁等の人事採用担当者を招き、合同業界研究セミナーを開催します。直接、人事採用担当者と話すことで資料やホームページでは知ることのできない情報が得られます。



【今後の主な就職活動サポート】講座&メニューのご紹介

【個人面談・相談】

必須の初回面談を済ませた3年生全員に対し、2回目以降の個人面談を実施しています。面談は予約制ですので、じっくり時間をかけて相談することができます。

【充実したキャリアカウンセラー体制】

両キャンパスにキャリアカウンセラーの有資格者を配置し、個別相談をはじめ、模擬面接や少人数ガイダンスなど、個々の学生にきめ細かな対応を行っています。

【グループディスカッション対策セミナー】

一人では練習することができないディスカッション形式の面接について理解し体験します。併せてグループディスカッションにおける採用担当者の着眼点についての理解を深めます。

【就職活動のための基本ビジネスマナー対策講座】

説明会や面接の場面以外でも見られているということを学生は意識しておくことが大切です。就職活動におけるマナーや第一印象を向上させることを学びます。

【上手な合同企業説明会利用の仕方講座】

2月の学内合同業界研究セミナーおよび3月以降に実施される学内外の合同企業説明会を十二分に活用する方法や注意事項について説明します。

【求人ナビの登録と活用】

求人ナビでは『帝塚山大学の学生を採用したい』という企業、各種団体、学校法人、福祉法人などから送付された多数(2017年度約3万件)の求人票を掲載しています。

【履歴書写真学内撮影会&メイク講座】

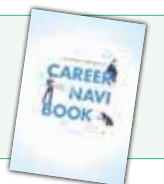
企業エントリーや履歴書に使用する写真を撮影します。女子学生対象にメイク講座も実施し、就職活動～社会人まで使える好感度の高いメイクのポイントを説明します。

【資格取得・就職支援講座】

『特別資格サポート制度』をはじめ、開講講座すべてにおいて受講生の経済的負担を考慮して、学外の資格試験予備校に比べ受講料を低い金額に設定し、提供しています。

「CAREER NAVI BOOK」

現在の就職活動状況を理解し、本学の就職支援内容について紹介する冊子です。就職活動時の保護者の方の心構えなどについても触れています。



【お問い合わせ先】キャリアセンター

奈良・東生駒キャンパス Tel 0742-48-9688
奈良・学園前キャンパス Tel 0742-41-4751

INTRODUCING OUR GRADUATES

卒業生紹介

帝塚山大学を卒業後、社会で活躍する先輩方を紹介します。



須賀 勇之進さん

経済学部 経済学科(現:経済経営学部 経済経営学科)2016年3月卒業
四国旅客鉄道株式会社 (JR四国) 勤務

私は土讃線の阿波池田駅～窪川駅間、気動車(ディーゼル車)の運転士として日々、列車の運転業務を行っています。

安全かつ時間通りに運転するのが運転士の仕事です。列車の運行は様々なシステムに支えられていますが、駅や車両にはそれぞれ特性があり、運転士の的確な判断や経験が必要です。国家試験に合格し免許を取得した後も、定期的に訓練や教育を受け、より深い知識の習得と技術の向上を行っています。

生まれ育った四国で働き、地域の活性化を図るような仕事がしたいと思い、JR四国を志望しました。運転士になることができた今、まずはプロの運転士としてお客様の安全を第一に考え業務を行うことが最大の目標です。

今後、四国新幹線の誕生を願っています。実現のあかつきには新幹線の運転士をめざしたいと思っています。

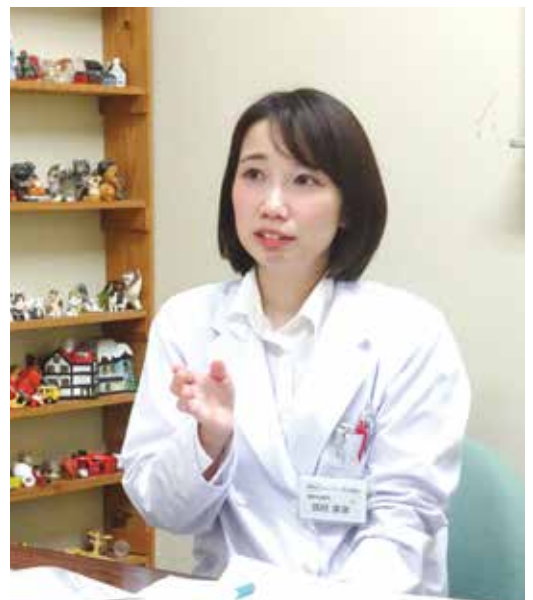
就職活動に臨む後輩たちへのメッセージ

まず大事ななのは自分についてじっくり考えることです。自分はどういう人物なのか、将来的にどういうことがやりたいのか、そうするとおのずと答えは出てきます。大学時代にはラグビー部に所属していたことから、試合に備え、部員同士で意見を交換し、練習メニューを調整するなど目標を達成するために段取りを組み立てていく中で、社会人に向けての自分作りができたような気がします。学生の皆さんには積極的に様々なことに挑戦してほしいと思います。アクションを起こさないとリアクションは起きません。そのリアクションが自分自身の糧になることが多いです。やりたいことが見つければ、あとは本気になるだけです。悔いのないように頑張ってください。

臨床心理士として、相談機関や医療機関など4か所で勤務しています。

メンタルヘルスセンターでは、企業の相談業務を担当しています。カンファレンスや研修会なども活発に行われ、産業心理学について学ぶ良い機会となっています。様々な現場で多くの人と関わることで、職業的にも自分にとっても必要と感じ、いくつかの職場で勤務させていただくようになりました。

医療機関では、患者さんの心の状態を知るための検査やカウンセリングを行っています。クリニックで、子どもと関わる機会が多くなったことから、今後は更に子どもの発達について深く学びたいです。また、以前緩和ケアの仕事を携わっていたため、再びがん患者さんの支援を行いたいと思っています。そのためにも今は、多くの方と関わり、経験を積み、専門書を読むことで、スキルアップに励んでいます。また、職場の多職種の方との関わりを通じて



勤務先の一つ「医療法人養心会 国分病院」にて

武村 美幸さん

心理福祉学部 心理学科(現:心理学部 心理学科)2010年3月卒業
特定非営利活動法人 大学院連合メンタルヘルスセンター
特別研究員・相談員・臨床心理士

就職活動に臨む後輩たちへのメッセージ

私は高校でスクールカウンセラーの先生と出会い、大学のゼミでボランティアを勧められ、人を支えることに興味を持ち、臨床心理士をめざすようになりました。心理学は、人と関わるうえで大切な知識を教えてください。一般企業でも、大学で学んだことを活かすことができます。と思います。

心理職は、小さなお子さんから高齢者までの支援を行う難しい仕事ですが、患者さんとの出会いは一期一会です。患者さんの時間と気持ちを大切に扱わなければと思い、日々努力しています。働く場は多岐にわたり、大変なこともあります。多くの知識を学ぶ機会を得られます。人との出会いを大事にできるという意味で、とてもいい仕事だと思います。

帝塚山大学の様々な地域連携活動を紹介します。



学生が制作し再現した「露天」で買い物する来場者



福住での昔の暮らしを紹介する展示コーナー

1 奈良県立図書情報館と共催で「帝塚山大学 福住プロジェクト」の地域への公開を行いました

「福住プロジェクト」は、本学人文科学研究科日本伝統文化専攻の大学院生と文学部日本文化学科の学生たちが中心となり、天理市福住町で生まれ育った、故永井清繁氏（1905～1999年）による、明治末期から昭和初期の福住の暮らしを克明に画帳に描き出した作品について、現地でのフィールドワーク等の体験から学びを深めることを通して、地域との連携や帝塚山小学校との学園内連携など、様々なかたちでの取り組みを行っています。

4年目となる今回は、奈良県立図書情報館を会場として昔の暮らしを体験するコーナーと展示解説を行ったほか、パネル展示のもととなった原画（永井清繁氏画）を1日限定で特別公開し、本学文学部の教員および絵を描かれた永井氏のご息女による特別講演も開催しました。

また、居住空間デザイン学科の学生たちは、木材や段ボールを用いて再現した当時の「露天」で買い物や射的を再現し、趣向を凝らした体験イベントを実施しました。民俗学と歴史学を研究する大学院生と文学部学生は、昔の道具と人々の暮らしについての展示解説を行い、居住空間デザイン学科の学生は、絵に描かれた当時の人々の姿に扮装して、イベントに参加しました。学生たちからは、聞き取り調査やフィールドワークを通じて情報収集力が向上したといった感想が聞かれました。

今回のプロジェクトでは、来場者の皆様が地域文化や生活史をより深く理解することで、その価値を地域に還元できています。今後も地域に残る文化遺産等を再発見することで、観光資源の発掘につながるよう継続していく予定です。

2 ロボット教室を開催

本学では総合学園の強みを生かし、学校間の教育連携を進めています。学園内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院、研究機関が相互に協力することで、児童・生徒・学生の可能性をこれまで以上に引き出し、教育効果の向上につながることを期待するものです。

総合学園内の教育連携の一環として、今年で5回目を迎える「帝塚山ロボット教室」（主催：帝塚山ロボット教室実行委員会）が6月3日、6月10日の2日間、帝塚山中学校高等学校の物理実験室で開催され、地域の小学生がロボットの組み立てからプログラミングに取り組みしました。

教室の企画・運営は帝塚山大学現代生活学部こども学科の学生が担当し、ロボットの世界大会に出場した帝塚山中学校高等学校の理科部ロボット班が小学生を直接指導しました。

当日は、こども学科の学生がプログラミングの概要をパワーポイントで説明。その後、各班に分かれて車型ロボットの組み立てやプログラミングに取り組む小学生たちを、中高生とともにサポートしていました。短時間のうちに難易度の高い課題をこなす小学生たちの姿を目の当たりにし、学生たちも自分たちの立てた授業計画に確かな手ごたえを感じた1日となったようです。

2020年度からは、小学校でプログラミング教育が必修化されます。このロボット教室は、アクティブ・ラーニング形式でプログラミング教育の実践法を学生に身につけてもらう良い機会にもなりました。

本学では、今後もこのような教育連携を強力に推進していくこととしています。



プログラミングの概要を説明することも学科の学生たち



ロボットの組み立てやプログラミングでも小学生をサポート

文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業採択

『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進」最新の取り組み



『龍華記』創作秘話について、澤田瞳子先生を囲んでの座談会

「奈良学」フォーラムを開催
10月14日、興福寺境内にある興福寺会館において、興福寺中金堂落慶記念・本学文学部「奈良学」フォーラム「祈りと復興」を開催しました。本フォーラムは、法相宗大本山興福寺の全面的な協力を得て実施したもので、当日は、蓮花一己学長、本学特別客員教授でもある多川俊映興福寺貫首の挨拶にはじまり、文学部長清水昭博教授による興福寺旧境内の瓦窯跡の紹介、フリーアナウンサーの岡崎ゆう子氏による澤田瞳子氏最新作『龍華記』の朗読、興福寺国宝館多川文彦学芸員による拝観案内に続いて、座談会を行いました。

座談会では、「南都焼討」後の興福寺再建とそれを取り巻く人々の苦悩を描く落慶記念小説『龍華記』を手がけた歴史小説家の澤田瞳子氏、「小説野性時代」編集長の山根隆徳氏、興福寺執事の辻明俊師、清水昭博教授が登場し、『龍華記』創作の舞台裏に迫りました。会場に詰め掛けた200名を超える歴史・文学ファンは、豪華なプログラムを堪能しました。



奈良晒と大和機について説明する植村名誉教授

奈良学への招待の開講
10月20日より奈良・東生駒キャンパスにおいて公開講座「奈良学への招待×××」を開催しました。2002年度から開始した本講座も今回が17回目。全5回の連続講座で初回は文学部の岩井洋教授が「五條の歴史学的研究―交通遺産としての五新線を中心として―」、第2回は10月27日に植村和代名誉教授が「奈良晒と大和機」、第3回は11月3日に文学部の服部敦子講師が「永野鹿鳴荘の仏像写真について―デジタル化作業からわかったこと―」、第4回は11月10日に文学部の高田照世准教授指導のもとで人文科学研究科博士後期課程の西蓮寺匠さんが「斑鳩の民俗文化―奈良の生活文化研究―」、最終の第5回は11月24日に文学部の杉崎貴英准教授が「矢田地蔵縁起絵の世界―奈良北西部の歴史・文化研究―」の演題でそれぞれ講演を行いました。

文部科学省・私立大学研究ブランディング事業の一環で取り組む各事業の進捗状況の報告を兼ねた本公開講座を通して、本学の特色である「学際的『奈良学』研究」を地域の方々に広く紹介する機会となりました。



塑像と傳仏について解説する戸花講師

「東近江の古代寺院の源流を探索」を開催
11月14日より本学附属博物館は、東近江市能登川博物館において、同館および東近江市埋蔵文化財センターとの共催で、企画展示「東近江の古代寺院とその源流―東アジアからの道―」を開催しました。11月24日には「東近江の古代寺院の源流を探索」と題してシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、本学附属博物館長で文学部長の清水昭博教授、本学考古学研究所特別研究員の甲斐弓子氏、本学附属博物館学芸員で文学部の戸花重利州講師がそれぞれのテーマで講演し、東近江市埋蔵文化財センター所長の杉浦隆支氏のコーディネートによるパネルディスカッションでは活発な議論が展開されました。



関西を拠点に現在も活躍する喜多俊之氏を一躍世界のデザイナーにしたのが、この椅子である。ヘッドレスト・フットレストを自由に折り曲げることが可能で、着せ替え用のカラフルなカバーも用意されている。この椅子を製造販売するイタリアではトポリーノ（小ネズミ）という愛称がつけられ、見る者を明るく豊かな気持ちにさせる。

しかしこの椅子のデザインが醸し出す豊かさは、ただ使いやすさや見た目の色形だけではない。この椅子を手に入れることによって叶うであ

ろう、喜多氏が言う「素敵なくらし」の豊かさそのものである。

この欄で紹介してきた椅子に代表されるモダンデザインの時代は1960年代に終わり「正しいデザイン」の規範が失われた時代に、この椅子はまさにウィンクしながらカラフルに登場し、時代が求める気分を示した。先端や前衛と言われる椅子のデザインはめざす社会のあり方が現れる。この椅子が発表されて40年が経とうとしているいま、次に何が示されるか、椅子デザインへの興味は尽きない。

文学部 日本文化学科 准教授

高田 照世

奈良学

への招待 大晦日の砂まき

奈良県生駒市高山町では大晦日に砂まきを行う。里山から赤土を採取し持ち帰り、箕に入れた赤土を自宅の庭にまいて階段状あるいは放



神の来臨を待つ大晦日の庭の様子
(生駒市高山町にて)

射状の線を数本引く、家によっては太陽や宝船も描く、その後、玄関先に提灯をつるす。これが砂まき行事である。この行事は正月に来訪する年神様をお迎えするための準備と考えられる。砂で神様の道を作る形状に太陽信仰や福神信仰が習合したのであろう。神が来臨するのは夜であり、本来、年神の祭りは大晦日の夕刻から元旦にかけて行われた。美しい山砂で道を作り、提灯で照らし、年神様の訪れを待つ大晦日の砂まきは、日本の神迎えの古い姿を今

に伝えている。

一昔前、高山町では年末に門松を飾ったという。山から雄松、雌松を切って持ち帰り、円錐形に盛った砂の上に松を立てた。門松は年神様の依代であるとされている。山砂で作られた道を通り、松を依代とする年神様は山から来られる神である。高山町では、子孫が暮す家の屋根が見える里山に先祖神がとどまると信じられており、正月に山から来訪する年神は先祖神ともいえるよう。

TEACHERS' PUBLICATIONS

本学教員の執筆図書紹介

石田 慎二

(現代生活学部 准教授) 監修

ワイド版 社会福祉小六法
2018[平成30年版]資料付
ミネルヴァ書房 ￥2,160



岩橋 明子

(現代生活学部 准教授) 共著

カレント公衆栄養学
第3版
建帛社 ￥2,808



川口 洋

(文学部 教授) 共著

Morts avant de naître
la mort périnatale
Presses universitaires
François-Rabelais 24,00€



(著者名50音順)

鷲森 浩幸

(文学部 教授) 分担執筆

姫路市史
第2巻 本編 古代中世
姫路市 ￥5,000



志垣 瞳

(帝塚山大学 名誉教授) 分担執筆

小麦・いも・豆のおやつ
(別冊うかたま。
伝え継ぐ日本の家庭料理 13)
農山漁村文化協会 ￥1,728



清水 益治

(現代生活学部 教授) 共編著

幼児教育(保育士等
キャリアアップ研修テキスト 2)
中央法規出版 ￥1,512



花田 卓司

(文学部 講師) 分担執筆

概説日本法制史
弘文堂 ￥3,780



花田 卓司

(文学部 講師) 分担執筆

古代・中世の地域社会
「ムラの戸籍簿」の可能性
思文閣出版 ￥9,720



花田 百造

(心理学部 准教授) 分担執筆

高齢者の犯罪心理学
誠信書房 ￥3,024



後援会（在校生保護者）の皆様へ

保護者教育懇談会・就職説明会を開催しました

10月21日、奈良・東生駒および奈良・学園前の両キャンパスにおいて、帝塚山大学保護者教育懇談会・就職説明会を開催しました。奈良・東生駒キャンパスでは文学部・経済経営学部・経済学部・経営学部・法学部、奈良・学園前キャンパスでは心理学部・現代生活学部にて在籍する学生の保護者を対象に開催し、参加者数は昨年度を大きく上回る約230家庭から約300名の保護者の方々にお越しいただきました。

今年度は、保護者教育懇談会の後、午後から保護者対象就職説明会を実施することで、教育内容から就職活動まで、保護者の方々が気になるポイントを一日で網羅できるような企画としました。

初めに、蓮花学長から『教える』教員と『育つ』学生との共同作業を通じて、未来に役立つ学びを展開していきたいとの挨拶があり、続いて学部・学科別説明会および情報交換会が各会場に分かれて実施されました。その後は立食形式の懇談会が学科ごとで行われ、参加された保護者の方々と学科の教員が軽食を取りながら談笑する姿が随所で見られました。

午後からの就職説明会では、株式会社リクルートキャリア・リクナビ副編集長の山下大輝氏（東生駒）、松田和也氏（学園前）による「近年の就職状況と保護者の支援」と題した講演の後、内定を獲得した4年生によるパネルディスカッションが行われました。内定者からは、内定先に決定した理由、保護者から元気をもらった一言など、就職活動を振り返っての率直な意見が出され、盛況のうちに閉会となりました。

本学は今後も「学生への教育・支援がきめ細かい」大学をめざし、保護者の皆様とも情報を共有しながら、学生一人ひとりに寄り添った教育活動を展開してまいります。



蓮花学長からの挨拶



学部・学科別説明会の様子

■保護者の皆様から以下のようなご意見・ご感想をいただきました（参加者アンケートより）

- 親元から離れて生活している子どもの様子が全くわからない中で、先生方からの話を聞いて、改善すべき点が良くわかりました。子どもと話をしたいと思います。早起きして奈良まで来た甲斐がありました。
- 分からないことだらけで不安いっぱいでしたが、説明会に参加して和らぎました。子どもに対しても接し方が変わりそうです。
- オープンキャンパスの時から、大学側が就職にとっても力を入れてくださっているイメージがあります。内定された4名の先輩方からの言葉にはリアリティーがあり、現在の就活が良くわかりました。
- 親ができることとして、子どもを勇気づける言葉が具体的にわかりました。そして本人の意思決定の精度を高める質問をしていくことも大事であることがわかりました。
- すぐく集中して講演を聞きました。親としての心構えが必要であるとともに、これから親子で就活していくんだとわかりました。
- 現在の就活の状況が良くわかりました。早めの準備が必要ということを知れたので、帰ったら息子に伝えます。そして適度な距離感で支えていこうと思います。

参加者数（224家庭 301名）

(内訳)				法			
文・人文	29家庭	40名	※前年17家庭 25名	心理	48家庭	66名	※前年28家庭 43名
経済経営	23家庭	28名		食物栄養	28家庭	37名	※前年26家庭 36名
経済	20家庭	26名	※前年23家庭 30名	居住空間デザイン	18家庭	28名	※前年15家庭 23名
経営	17家庭	22名	※前年25家庭 36名	こども	21家庭	26名	※前年17家庭 26名

平成30年度帝塚山大学卒業式・帝塚山大学大学院修了式を挙行事

平成31年3月20日（火）13時00分開式（入場受付：12時～12時30分）

【会場】グランキューブ大阪（大阪国際会議場）

8月

8月1日

教職員のための
プログラミング講座を開講

奈良・東生駒キャンパス7号館において、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教職員を対象としたプログラミング講座を開講しました。2020年度から小学校の授業でプログラミングが開始されることも視野に入れ、プログラミング初心者、教職員を対象に、必要な論理的思考、各種アルゴリズムに関して、実際にパソコンを操作しながら体験していただきました。



8月9日

親子向け公開講座「親子で楽しもう！小学校『外国語活動』『外国語科』を開催

奈良・学園前キャンパスの保育演習室で、小学生とその保護者の方が親子で楽しく英語を学びました。外国語を聴きながら、体の動きを通して英語を学ぶという、海外でも広く活用されているTPR（全身反応教授法・英語を聴きながら身体の動作を伴って学ぶ学習方法）という方法で、講座を展開しました。



9月

9月13日

帝塚山大学 織物講座応用編
第一期生の修了式を実施

奈良・学園前キャンパスにおいて、「帝塚山大学 織物講座応用編」の第一期生の修了式が行われました。受講生は、4ヶ月にわたって、織物の歴史から奈良の伝統産業である「奈良晒」や「大和機」について講義を受けるとともに、実習を通じて、大和機、腰機、芋績み、スブラン、編などの様々な紡織技法を習得しました。



9月15日

公開講座 & ウォーク「岡寺」～歴史編・考古編・美術編～」を開催

飛鳥をフィールドとした生きた大学教育の推進並びに飛鳥地域の保存・発展に寄与することを目的に、奈良県高市郡明日香村で、公開講座 & ウォーク「岡寺」～歴史編・考古編・美術編～」を実施し、約40名の方が参加されました。午前の部では、岡寺創建の経緯について説明を受け、午後の部では、岡寺ゆかりの地である、川原寺跡・飛鳥宮跡（内郭）・飛鳥宮跡（エビノコ郭）・治田神社・岡寺の順に巡りました。



9月27日

平成30年9月卒業式を挙行

奈良・東生駒キャンパスにおいて行われ、5学部1研究科の合計14名が学び舎を巣立ちました。

10月

10月21日

大和野菜のメニューを加えた
「New 殿様弁当・秋」を産学連携で開発

本学は株式会社味の和路（大和郡山市池沢町）と連携し、大和野菜を使用した「New 殿様弁当・秋」を開発しました。食物栄養学科の佐伯孝子准教授のゼミに所属し、管理栄養士をめざす学生10名が、企画・開発から携わり、販促ちらしなども作成しました。この日、DMG MORI やまと郡山城ホール展示室（大和郡山市北郡山町）において開催の「第七回大和郡山 良い食品博覧会 食の語り部講座」で、同弁当160個を限定販売しました。



10月29日

奈良の特産品にこだわった「ラー油奈良漬」
納豆を小金屋食品株式会社と開発

小金屋食品株式会社との産学連携で、「帝塚山大学フレイバー」としてカップ納豆粒シリーズ「ラー油奈良漬」を商品化しました。上質なごま油となたね油を使用した和風のラー油に漬け込まれた甘口奈良漬のピリ辛風味が、お酒やご飯だけでなく、フランスパンに合わせてものごと和風にしても洋風にしても後を引く味に仕上がりました。



第54回虹色祭・ホームカミングパーティを開催しました



11月17日・18日の2日間、奈良・東生駒キャンパスにおいて、第54回「虹色祭」（大学祭）を開催しました。今年のテーマは「想（おもい）～仲間とともに～」。ご来場のお客様、学生たち、教職員、実行委員スタッフ、それぞれの想いが大学祭に込められているという意味です。活気にあふれたイベント、クラブ・サークルによる発表、工夫を凝らした模擬店に多くのお客様が訪れました。ステージではET-KINGさんによるライブステージや、お笑いライブ、本学卒業生によるアカペラサークル公演が行われ、フィナーレの「帝塚山大学ミスコンテスト」では、5名の候補者がミス帝塚山の座を競いました。今年で7回目を迎えるホームカミングパーティでは、久々に学び舎に戻った卒業生たちが、食事をしながら教員や友人たちとの再会を楽しみました。最後は毎年恒例の打ち上げ花火。音楽に合わせて夜空を彩る花火に大きな歓声があり、皆が名残を惜しむ中、第54回虹色祭は閉幕となりました。

11月

11月2日

【法学部】奈良県警察 遠藤雅人本部長による講義を実施

法学部の特殊講義「警察組織と警察実務」において、奈良県警察の遠藤雅人本部長による講義が行われました。同特殊講義は、警察官をめざす法学部の学生が、警察組織やその実際の活動を理解し、犯罪抑止などに対する警察の最新の取り組みについて学ぶことを目的としています。遠藤本部長の緩急織り交ぜた話術にはしばしば笑いが起こることも。非常に和やかなムードの講義となりました。



11月3日

【公開講座】

正倉院展特別公開講座を開催

第70回正倉院展の会期にあわせ、「正倉院展特別公開講座『写された正倉院宝物』を東大寺総合文化センター（小ホール）で開催し、本学文学部の牟田口章人教授が講演を行いました。今年の正倉院展に出陳される宝物にちなみ、正倉院宝物に魅せられた明治の人々の軌跡を紹介しました。牟田口教授が所有する國華余芳の現物を会場で披露し、講演終了後には、受講者とともに東大寺講堂跡を通り正倉院「正倉」外構を訪れました。



11月18日

【経済学部】第7回「経済学部ゼミ研究報告会」を実施しました

経済学部では虹色祭（大学祭）期間中に「ゼミ研究報告会」を実施しました。本報告会は、経済学部3年生が所属ゼミでの平素の研究内容を「プレゼンテーション部門」と「ポスター部門」に分かれて報告するというもので、今年で7回目を迎えた報告会には経営学部3年生からもポスター部門に2組の参加がありました。すべての報告の中から、各部門の最優秀賞や優秀賞などが選定され、1月8日に表彰式が開催されます。



12月

12月7日～25日

奈良・学園前キャンパスにて、

イルミネーションの点灯が行われました。

14年目を迎えた奈良・学園前キャンパスイルミネーション。今年のテーマは「瞬く雪の園」。現代生活学部の学生を中心としたメンバーで構成されるイルミネーション推進委員会の企画により、新たに「つらら」をイメージした電飾を使い、冬の夜の学園前キャンパスは幻想的な空間に演出されました。12月7日の点灯式では、学長挨拶のあと、学生や教職員に温かいスーブが振る舞われ、大勢の来場者で賑わいました。



多摩大学との大学連携による各種取り組み紹介

■ 2018年度「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」に参加しました



松下先生（地域連携推進委員）による講評

12月8日、本学と「学術交流に関する包括協定」を締結している多摩大学（東京都多摩市）において2018年度「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」が開催され、本学の法学部法学科、現代生活学部居住空間デザイン学科から2チーム（総勢5名）の学生が参加し、発表を行いました。今年で10回目を迎える発表祭は、多摩大学を中心に本学からの招待発表2チームを含む約50組の発表チームが参加しました。

本学最初の発表は、アドバンス・プログラム（経済・経営・法学部選抜）チームによる「ラーメンを観光資源に」で、法学部法学科3年の金沢翔太さん、杠（ユズリ）晟一郎さんが発表しました。

本学の奈良・東生駒キャンパスに程近い「富雄」駅周辺にはラーメン店が多い現状と、それを地域観光にどう結び付けるかを発表し、また法学部の観点からラーメンを地域団体商標登録した事例の紹介も行いました。

続いて、現代生活学部居住空間デザイン学科3年の小林眞子さん、小林真子さん、常慶桜花さんが「奈良の昔のくらし」を発表しました。7月7日に奈良県立図書情報館で、本学・日本文化学科と協働して開催したパネル展示「山里に行き交う職人たち」の関連イベントで、昔の縁日を再現した夜店や商品の制作の経緯につき、現地調査とヒアリング、材料や道具を調査検討、試作を繰り返し実演に至る内容を発表しました。

今回は多摩大学、帝塚山大学に加え、東京経済大学から2ゼミと多摩大学併設の多摩大学目黒高校からの参加があり、バラエティに富んだ内容となりました。質疑応答も活発に行われ、互いの内容に刺激を受け、良い相乗効果が期待できる発表祭となりました。2019年2月16日（土）には本学主催の「実践学生発表祭」を開催し、多摩大学から2チームを招待し、活発な交流を予定しています。



本学発表2チームの指導教員と学生



アドバンス・プログラムの発表

第417回 2月2日(土)14:00～15:30

「生駒を語る一信仰と観光の町、そこに住む人々」
講師：野口 朗人氏（生駒ふるさとミュージアム学芸員）

第418回 2月16日(土) 13:00～16:00

「飛鳥の古代尼寺を語る」
講師：大西 貴夫氏（檀原考古学研究所指導研究員）
「韓半島の古代尼寺を語る」※通訳付
講師：李 炳鎭氏（韓国・国立弥勒寺址遺物展示館館長）

第419回 3月9日(土) 14:00～15:30

「天皇即位と縁起の改元
一縁起は心を奮い立たせ、招福となる」
講師：甲斐 弓子氏（帝塚山大学考古学研究所特別研究員）

第420回 3月23日(土) 14:00～15:30

「法隆寺の瓦を求めて一聖徳太子と古代の三郷一」
講師：清水 昭博（帝塚山大学考古学研究所長・附属博物館長）

会場：奈良・東生駒キャンパス2号館2101教室
（第420回のみ三郷町文化センター 文化ホール）

【お問い合わせ先】

帝塚山大学考古学研究所・附属博物館

Tel 0742-48-9700 Fax 0742-48-8783

※詳細は帝塚山大学考古学研究所・附属博物館
ホームページをご覧ください。

<http://www.tezukayama-u.ac.jp/social/institute/arch/>

arch@tezukayama-u.ac.jp

Museum Announcements

附属博物館からのお知らせ

企画展示

第11回帝塚山大学博物館実習生による

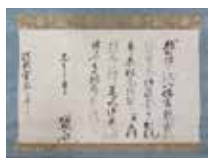
「紙季折々一紙面から昭和～平成を振り返って」

平成31年5月に元号が改元することにちなんで、昭和や平成に起こった様々な出来事を新聞や関連する資料から振り返ります。今回の展示も実習生が企画から展示までを担当します。さらに、初の試みとして実習生が他館と交渉して資料借用も行いました。

【期 間】1/11(金)～2/2(土) 【入 場 料】無料
【会 場】附属博物館 【開館時間】9:30～16:30
【休 館 日】日曜・祝日
※1/18(金)・19(土)・24(木)・25(金)・26(土)は休館
【展示解説】2/2(土)15:45～

文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業採択
『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進
「奈良学とのであいー帝塚山大学所蔵の古文書ー」

帝塚山大学は、奈良にかかわる資史料を収集し、奈良の歴史・文化の研究や日頃の学生教育に活用しています。それらのなかには、まだ世の中に知られていない、貴重な古文書も多く含まれています。今回の特別展示では、帝塚山大学が所蔵する鎌倉時代から江戸時代にかけての古文書を中心に、さまざまな文献史料を展示します。



展示予定の古文書より
「筒井順興書状」

【期 間】2/9(土)～3/9(土) 【入 場 料】無料
【会 場】附属博物館 【開館時間】9:30～16:30
【休 館 日】日曜・祝日

【お問い合わせ先】

帝塚山大学附属博物館

Tel 0742-48-9700 Fax 0742-48-8783

<http://www.tezukayama-u.ac.jp/museum/>

2019 January-June
INFORMATION & EVENT NEWS
お知らせ・イベントニュース

Public lectures

公開講座

帝塚山大学・(公財)奈良市生涯学習財団共催公開講座

要申込 聴講無料

『行動経済学』が解き明かすあなたの心

2017年のノーベル経済学賞は、2002年に続き「行動経済学」という耳慣れない新分野が受賞しました。この行動経済学は心理学を取り入れた経済学と言え、例えば私たちが無意識のうちに取っている行動にも心の「癖」とも言える法則性が潜んでいることを明らかにしました。第1回では行動経済学を、私たちが商品を選ぶ場面を例にして解説します。第2回では、行動経済学を応用して社会をより良くする方法「ナッジ」を、実際の例を用いて紹介します。金融工学やGDPといった何だか遠い世界ではなく、私たちの身近な生活について教えてくれる経済学を、今回の公開講座ではお届けします。

第1回 3月9日(土) 10:00～11:30

「説明できますか？その商品を選んだ理由」

第2回 3月16日(土) 10:00～11:30

「心の『癖』を活用した確定拠出年金とは？」

講師：竹本 亨（帝塚山大学経済経営学部教授）

定員：50名 ※全2回講座 会場：西部公民館4階 会議室

【申込・お問い合わせ先】

往復ハガキ（講座名・〒住所・電話番号・名前（ふりがな）・年齢を必ず記入）
または、下記URLより「参加申込」フォームでお申込みください。
※2019年1月下旬より受付開始

公益財団法人 奈良市生涯学習財団 西部公民館
〒631-0034 奈良市学園南三丁目1番5号 西部会館内
Tel 0742-44-0101 Fax 0742-44-0103

<http://manabunara.jp/>

文部科学省平成29年度私立大学研究ブランディング事業採択
『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進
帝塚山大学奈良学総合文化研究所
名品・名作誕生XVI

「帝塚山大学所蔵の古文書展」によせて

要申込 聴講無料

第1回 2月9日(土) 10:30～12:00

演題「源氏物語古系図の資料的価値」

講師：清水 婦久子（帝塚山大学文学部教授）

第2回 2月16日(土) 10:30～12:00

演題「鎌倉時代の大和国平群郡飽波郷」

講師：花田 卓司（帝塚山大学文学部講師）

第3回 3月2日(土) 10:30～12:00

演題「平安時代初期の興福寺と藤原氏」

講師：鷺森 浩幸（帝塚山大学文学部教授）

第4回 3月9日(土) 10:30～12:00

演題「大和国の近世文書」

講師：谷山 正道氏（天理大学名誉教授）

定員：各回100名 会場：奈良・東生駒キャンパス1号館1301教室

【申込・お問い合わせ先】

FAX（講座名・〒住所・電話番号・名前（ふりがな）・年齢・性別を必ず記入）
または、下記URLから講座名をクリックし、申込フォームでお申込みください。
※2019年1月7日（月）より受付開始

<http://www.tezukayama-u.ac.jp/social/lectures/>

帝塚山大学 奈良学研究推進室

Tel 0742-48-9192（月～金9時～17時） Fax 0742-48-6092

「第1回帝塚山大学フォトコンテスト」を開催

帝塚山大学では、「帝塚山大学の四季～キャンパスの夏・秋を切り取ろう～」をテーマに「第1回 帝塚山大学フォトコンテスト」を開催しました。大学の両キャンパスには、豊かな自然や草花、貴重な文化財や建造物が各所に存在しています。今回のコンテストは、これら大学およびキャンパスの素晴らしさを再認識することを目的として企画されたものです。

学生・教職員あわせて300点もの応募があり、その中から、厳選なる審査の結果、下記20点の作品が入賞しました。11月17日の虹色祭では、奈良・東生駒キャンパスの1号館ラーニングcommonsにおいて、表彰式が執り行われました。(表紙の画像)

開催された作品展では、キャンパスの風景、樹木や草花、建物やインテリア、人物を瑞々しい感性で切り取ってくれた20点の作品が展示され、多くの学生たちが見入っていました。



グランプリと特選を受賞した3名の学生たち
グランプリ：岩本さん(中央)
特選：鬼頭さん(左) 特選：トウナガラグさん(右)

《審査委員》審査委員長：蓮花 一己 学長

特別審査員：フォトグラファー やまぐち 千予氏
(本学卒業生・PIYOCAMERA写真事務所代表)

審査員：向井 篤弘 副学長、飛世 昭裕 副学長、
多賀 久彦 大学事務局長



【グランプリ】

撮 影 者：岩本 拓也さん(文学部 文化創造学科 4年)

タイトル：また明日。

大学が夏休みで学生が少ない中、今日も大学内でお稽古の日々。今日も上手く出来なくて、悔しくて。それでも、友達や後輩と「また明日！」と夕焼けの空に向かって帰宅しているときは、笑顔でいる。そんな、いつも見ている景色を撮りました。

【特選(2点)】

① 撮 影 者：Khashbat Tungalagさん

(文学部 日本文化学科 2年)

タイトル：私の大好きな大学

部活が終わって帰る道から見える、好きな場所をとってみました。



② 撮 影 者：鬼頭 瑞季さん(現代生活学部 食物栄養学科 4年)

タイトル：夏の夕日～TEZUKA～

ここから見る夏の夕日は帝塚山大学内で1番好きな場所。なので、TEZUKAと夕日をコラボしてみました。

【入選(3点)】

① 撮 影 者：徳山 晴香さん

(現代生活学部

食物栄養学科 1年)

タイトル：小さい秋見つけた～



② 撮 影 者：部谷 美有さん

(現代生活学部

居住空間デザイン学科 2年)

タイトル：秋の通りかぜ



③ 撮 影 者：林 理紗子さん

(現代生活学部

居住空間デザイン学科 3年)

タイトル：木々から見える天空



【審査員特別賞(5点)】

① 撮 影 者：徐 玉茜さん(文学部 日本文化学科 3年)

タイトル：雨のち晴れ

② 撮 影 者：勢志 晃大さん(文学部 文化創造学科 2年)

タイトル：孤高のカマキリ

③ 撮 影 者：長田 莉奈さん(経済経営学部 経済経営学科 1年)

タイトル：頑張ろうと思える景色

④ 撮 影 者：永井 菜津実さん(現代生活学部 居住空間デザイン学科 1年)

タイトル：いつもの風景

⑤ 撮 影 者：安野 里恵さん(現代生活学部 こども学科 3年)

タイトル：秋の帰り道

【佳 作(9点)】

① 撮 影 者：Khashbat Tungalagさん(文学部 日本文化学科 2年)

タイトル：夜まで勉強したい気分になる大学

② 撮 影 者：徳山 晴香さん(現代生活学部 食物栄養学科 1年)

タイトル：小さい秋見つけた～その2

③ 撮 影 者：鬼頭 瑞季さん(現代生活学部 食物栄養学科 4年)

タイトル：4年間の思い出の場所

④ 撮 影 者：木下 志誠さん(現代生活学部 居住空間デザイン学科 1年)

タイトル：秋の訪れ

⑤ 撮 影 者：部谷 美有さん(現代生活学部 居住空間デザイン学科 2年)

タイトル：夏がきた

⑥ 撮 影 者：三部 由美子さん(現代生活学部 居住空間デザイン学科 4年)

タイトル：振り向くと

⑦ 撮 影 者：植田 真由さん(現代生活学部 居住空間デザイン学科 4年)

タイトル：見上げると。

⑧ 撮 影 者：小柴 昌也さん(全学教育開発センター)

タイトル：窓から見える奈良盆地

⑨ 撮 影 者：田中 宏幸さん(総務課・学園前キャンパス)

タイトル：秋雲一文字



国際交流

2018年度海外留学奨学生紹介

本学の海外留学奨学金制度(休学することなく、学費減免+奨学金受給)を活用して6ヶ月留学に選ばれた3名が、ニュージーランドのクライストチャーチ工科大学(CPU)で語学留学を行っています。世界50カ国以上の学生が集う活気あふれるキャンパスで、様々なイベントやアクティビティにも参加しながら、それぞれの目標に向かって奮闘しています。

ABCでの生活は授業で習った英語をすぐに日常に活かせるので、自分の表現の幅が広がってきていることが実感できます。学校主体のイベントがほぼ毎日開催されるので、「コミュニケーションを図る良いきっかけとなっています。留学生は個々に夢と学習計画があり、将来設計を行う上で情報交換ができるのは嬉しいですね。」(現代生活学部2年生 永田鈴)

ABCでは3ヶ月に1度行われるテストにより決められるレベル別のクラスで授業を受けています。私のクラスでは午前はグラマー、午後は主にスピーキングやリスニングの勉強をしています。先生からのコミュニケーションが英語に限られている厳しい環境により、先生が仰っていることを理解できる力が徐々に付いてきていると実感しています。

(経済学部3年生 黒山陽香)

今回の留学目標は、「日常会話を英語でスムーズにできるようになる」です。ニュージーランドに来てから2ヶ月ほどになりますが、まだ目標としているような会話は難しいです。でも、最初に比べて、自分から話しかけ、相手の言っていることを理解できるようになって、ホストファミリーとの会話が増えてきています。目標達成までしっかりと頑張っていきたいです。

(法学部3年生 堀田はづき)



2019年度 学部入試日程一覧

入試制度		出願期間			試験実施日	合格発表
		開始	終了 (最終日消印有効)	窓口受付日 ^{*1}		
一般入試	A日程前期	1月4日(金)	1月19日(土)	1月21日(月)	1月24日(木) 1月25日(金)	2月2日(土)
	A日程後期		1月31日(木)	2月1日(金) ~2月2日(土)	2月3日(日)	2月8日(金)
	B日程	1月22日(火)	2月15日(金)	2月16日(土) 2月18日(月)	2月19日(火) 2月20日(水)	2月27日(水)
	C日程	2月12日(火)	3月1日(金)	3月2日(土) 3月4日(月) 3月5日(火)	3月6日(水)	3月10日(日)
大学入試センター試験利用入試	前期	1月4日(金)	1月31日(木)	—	個別学力検査は実施しません。	2月8日(金)
	後期	2月12日(火)	3月1日(金)	—		3月10日(日)

※1 願書の窓口受付は奈良・東生駒キャンパス入試課でのみ受け付けます。
(平日) 9:00~17:00 (土曜日) 9:00~13:00

入試制度		出願期間			試験実施日	合格発表
		開始	終了 (最終日消印有効)	窓口受付日		
帰国生徒・外国人生徒試験	後期	1月18日(金)	2月1日(金)	—	2月19日(火)	2月27日(水)
	後期	1月18日(金)	2月1日(金)	—	2月19日(火)	2月27日(水)
外国人留学生試験	後期	1月18日(金)	2月1日(金)	—	2月19日(火)	2月27日(水)
AO入試	3月	2月25日(月)	3月8日(金)	3月9日(土) 3月11日(月)	3月13日(水)	3月14日(木)
ファミリー入試 ^{*2}	3月	2月25日(月)	3月8日(金)	3月9日(土) 3月11日(月)	3月13日(水)	3月14日(木)

※2 学校法人帝塚山学園が設置するいずれかの学校(幼・小・中・高・大・大学院と短大)の卒業生もしくは在校生、在学生の2親等以内の親族(兄弟姉妹、子、孫など)を対象とした入試です。詳しくは入試課までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】帝塚山大学 入試課

Tel 0742-48-8821(直通) ☎ nyushi@jimu.tezukayama-u.ac.jp

2019年度 大学院入試日程一覧

博士前期課程・博士後期課程

出願期間 1月25日(金) ~ 2月1日(金)

締切日消印有効

選考日程 2月14日(木)※ 合格発表 2月21日(木)

※選考方法等については、右記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

人文科学研究科 日本伝統文化専攻

〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1

Tel 0742-48-8150 [教学支援課(文学部)]

心理科学研究科 心理科学専攻(心理学専修・臨床心理学専修)

〒631-8585 奈良市学園南3丁目1-3

Tel 0742-41-4720 [教学支援課(心理学部)]

「大学通信帝塚山」企画・編集委員会

〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1 Tel 0742-48-9192 Fax 0742-48-6092

☎ koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp URL: http://www.tezukayama-u.ac.jp/

卒業生のお問い合わせ先: 帝塚山大学同窓会わかみどり会 Tel 0742-48-6157 (平日10時~15時)

